

「今福線」のお宝さがし

大畑 富紀

1. はじめに

今福線研究分科会は4年目を迎え、昨年作成したマップの素案を基に公表用にマップの校正を行い、HPに掲載することを目標として活動している。

今年は、中国地方地域づくり等助成事業にもとづく平成25年度助成事業に決定した。また、今福線は、11月21日の山陰中央新報の「石見のお宝紹介」に記載された。さらには、浜田市久保市長が、12月の所信表明で今福線のこともお話しされた。それゆえ、今福線はこれから注目をあびる遺構になると思われ、マップについては必ず成果をあげなければならない年となった。

ここでは、今年度の活動として、マップと下長屋トンネル調査について報告する。

2. 今年度の活動内容

- ・ 7月14日(日)13:00～第1回会合 打ち合わせ
(今年度の活動内容決定)
- ・ 12月 7日(土)10:00～第2回会合 打ち合わせ
(マップ意見交換等)
13:00～下長屋トンネル現地調査
17:00頃 宿へ食事等 再び意見交換
- ・ 12月～1月 マップの修正

3. リニューアルしたマップ

マップは作成した素案を基に、1回目の校正が大々的に行われた。技術者が作成したレポート的なイメージから親しみやすいマップへとリニューアルした。

12月7日のマップ意見交換会では、内容、表示方法、利用のしやすさ、凡例、レイアウト、誤表記および留意事項等について意見交換を行った。

表 1：採択一覧表

中国地方地域づくり等助成事業にもとづく平成25年度助成事業の決定について			
●中国地方地域づくり等助成事業にもとづく平成25年度助成事業が決定しましたのでお知らせします。採択された事業は下表の通りです。			
平成25年度 中国地方地域づくり等助成事業採択一覧表			
No.	事業名	団体等名称	事業箇所
25	ロックフェスティバルによる尾原ダム周辺地域活性化事業	NPO法人 さくらおろち	雲南市飛地内
26	旧国鉄今福線遺構(土木遺産)のPR活動	島根県技術士会	浜田市
27	「食の回廊」づくりを通じた鉄の歴史村ツーリズムの演出によるサービスの活性化	鉄の歴史村ツーリズム協議会	雲南市吉田町内
28	石見銀山ウォーキングミュージアム 竹林整備と竹の枝づくり	NPO法人 緑と水の連絡会議	大田市大森町(世界遺産 石見銀山)

(一般社団法人中国建設弘済会HPより)



写真 1：第 2 回会合



図 1：旧マップ（中面）



図 2：ニューマップ（中面）

4. 待望の下長屋トンネルへ

分科会では、橋脚やトンネルの遺構を数多く調査してきたが、この下長屋トンネルはこれまで一度も調査していないトンネルである。今回は今福側（工事起点側）から入ることになった。

・いざトンネル内へ

昨年から計画していたトンネルの調査が念願かなってやっと実現することとなった。また、今回は地域の会の方ともいっしょに調査することができた。調査メンバーは、佐野町の石本恒夫さん、金城まちづくり連絡会 会長の川上さん、雲城まちづくり委員会事務局の毛利さん、今福地区まちづくり推進委員会会長であり、石見ケーブルビジョン「怪傑!?石見ふしぎ探偵社社長」の田邨さんと技術士会分科会メンバーを含め総勢17名となった。



写真2：開かれし門扉



写真3：いざトンネル中へ

・劣化した覆工

中にはいるとトンネル側壁の隙間から細粒分の多い土や吹き出る湧水が確認された。土や湧水はトンネル坑口からかなり長い区間連続して続いており、足下は長靴や懐中電灯がないと歩きにくい状態であった。また、トンネルの坑壁には、まるで鐘乳石のつららのようにコンクリートの成分が反応して固形物が形成されていた。



写真4：流出した土



写真5：湧水



写真6：コンクリートのつらら



写真7：固形物

・トンネル中央部

トンネル中央付近では断面が変化している箇所が確認できた。今福側はトンネル形状が馬蹄形で、路盤敷の幅員が佐野町側よりやや狭くなっていた。保守用通路のスペースを確保するために側壁を直にしたらしい。また、中央から佐野町側にかけて健全な路盤を確認することができ非常に歩きやすい状況であった。



写真8：断面変化点



写真9：線路敷の路盤

・工事跡と見張り番

路盤が健全な区間は、各所にセンター杭が確認できた。また、側壁には施工に使用されたと考えられるBMの表記も残っていた。BMはNo.3～No.6まであり、これから縦断を計算すると約20%であることがわかった。また、この長いトンネルにも大量のコウモリが生息していた。



写真10：センター杭

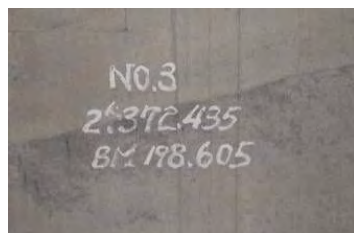


写真11：BM



写真12：見張り番コウモリ

表2：縦断勾配表

番号	No.6		No.5		No.4		No.3
距離	187.230	66.377	253.607	47.151	300.758	71.677	372.435
BM	202.550	1.404	201.146	0.883	200.263	1.658	198.605
勾配		21‰		19‰		23‰	

・トンネルから佐野町へ

トンネルから4連アーチ橋を渡ると、映画のロケにも使われた線路敷きにたどり着く。この線路敷きは地元の方で管理されているため、非常にきれいな状態で保存されている。また、この土工部について、石本さんに教えていただき新線と旧線の交差部分であることもわかった。



写真13：管理された線路敷



写真14：旧線と新線（お宝探し）

5. 今年の成果と今後の課題

【マップの完成】

リニューアルしたマップはほぼ完成した。再度体裁を整えHPに掲載するとともに浜田市等の関係機関にアピールしていく予定である。

【隣接団体のコラボ】

佐野町と金城町の雲城まちづくり委員会の方と下長屋トンネルで合同現地踏査ができた。今回のようにこのトンネルをきっかけに、今後もますます交流が深まっていくことが期待できる。

【課題1；安全対策】

有名な4連アーチ橋に来るといつも心配になるのが安全面である。この橋梁の手すりは錆びがひどく朽ちており、宙に浮いた箇所もある。再利用するにしても、この箇所に防護柵を設置するなど安全面を充実させないと実現するのは困難である。そのため、関係機関の協力も得て対策を講じる必要があると考える。



写真 15：朽ちた防護柵

【再利用方法の検討】

廃線跡をどのように保存・利用するかは難しい課題である。先般、親睦会の席で盆子原さんから飛騨高山のレールマウンテンバイク「Gattan Go!!」を紹介していただいた。実際にはレールがないためこれと同じように利用することはできないが、馬車や別な乗り物で代用するなどこれをヒントに利用する方法のイメージが浮かんできそうである。今福地区の施設の馬と廃線がうまく利用できれば、地域資源の有効利用と地域活性化に役立つと考える。



写真 16：レールマウンテンバイク



写真 17：参加メンバー

今福線研究部会は当初8名であったが、現在は14名に増員し、年々成果をあげることができるようになった。これからも、今福線の研究や地域活動に役立ち、眠れる「お宝」を掘り起こし、次の成果が得られるように活動していきたい。

—以上—